

私の幼稚園の増改築

—函館幼稚園—

戸村キエ

幼稚園と保育園の違いも吟味せずにはわが子を預ける母たち、幼稚園とは上流社会の子どもが入る施設なりとの知識より持たない母たち、幼稚園に通わせると小学校へ行ってからでしゃばりで困るらしいと聞いている母たち、幼稚園教育に対しておおかたの考えかたである地域の中で、このたびの園の増改築落成にいたった御父兄各位の協力を申し上げ、幼児教育は北方へと前進するきっかけになれば幸であると存じ、発展過程を申し上げて私の責を終えたいと思います。

函館幼稚園は五十年の歴史をもっておりません。現在の園舎は昭和十二年、すなわち二十年以前に建てられたものです。その前の園舎は昭和九年函館大火の際類焼しました。当時の経営は函館の愛国婦人会の人々によってなされていたので、新築も婦人会の人々の手によってなされたのです。二十年前のこの地域の幼稚園教育の発達段階においては、今から見ると進歩的につくりか

たであったと、当時の人々に敬意を表している者の一人です。

終戦後幼稚園教育が大衆の理解を深めると共に、園児数がふえ、人口二十五万の函館に公立一園では、相当無理な園児数を収容しなければならぬ昨今でした。この数年前より狭い園舎を十二分に活用して保育してまいりました。この状態を安全保育に誘導するには、多面的な保育内容によるものから園具遊具の設備に力を注いでまいりました。その結果楽しく遊べる施設が整ってまいり、形よりも内容にとの努力が園

欠席者(3日以内)	欠席者)
昭和20年度	12名
昭和22年度	15名
昭和24年度	35名
昭和26年度	22名
昭和28年度	51名
昭和30年度	70名

在籍数二百名前後です。この結果は幼児自身は勿論ですが、父兄側も教師側も大きな役割を果たしている結果であることを申し上げます。

児の出欠の上にあられ、父兄側も園側も喜びあつておりました。表をこらへ下さい。

その喜びが今回の増改築のきっかけとなつたと申しても過言ではないと思います。

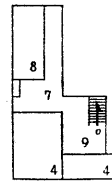
昨年度より新しいピアノが欲しいとの意向をとりあげていただき、三ヶ年計画で購入しようとのことで寄付金の積立を始めました。ところが、はからずも一年目にピアノ寄贈のしあわせに恵まれたのです。関係者一同感激しました。そこで三ヶ年計画積立寄付を、遊戯室拡張に充当することに一決しました。と時を同じうして、幼稚園設置基準が文部省より示されましたので、古い園舎でも、増改築することによって設置基準に近づけることは、公立幼稚園としては是非必要であるとの話し合いになりました。

こうした考えが盛上っている矢先に、文部省より補助対象の機に恵まれ、関係各位の快諾をいただき、早速予算措置となり、設計に、そして増改築に着手、一挙に完成をみるにいたつたわけです。

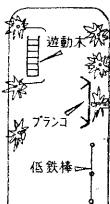
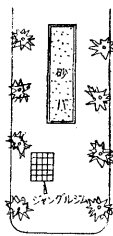
函館幼稚園々舎平面図

名称	函館市立函館幼稚園	
位置	函館市旭町3番地	
面積	1 階	176.00 坪
	2 階	56.50 坪
	合計	232.50 坪

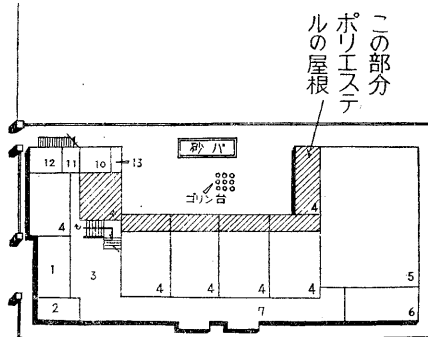
- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1 玄 関 | 4 保 育 室 | 7 廊 下 |
| 2 事 務 室 | 5 遊 戯 室 | 8 職 員 一 |
| 3 ホ ー ル | 6 W. C. | 9 ホ ー ル |
| | | 10 帳 間 場 |
| | | 11 湯 沸 場 |
| | | 12 石 炭 庫 |
| | | 13 押 入 |



2カ1平面図 5¹/₆₀₀



道 路
(グリーンベルト)

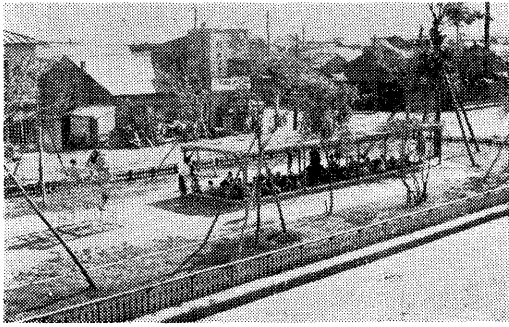


増 築 分

1カ1平面図 5¹/₆₀₀

この増改築のために、市の担当設計者が実際にモデル園舎を見聞していただいたことが、実際保育者として何よりうれしいことでした。

私も保育者の設計希望は、幼児を基盤においての理想郷を実現してもらうことを主張しますが、現在の市町村財政は限られた予算内での計画でまかなっておるありさ



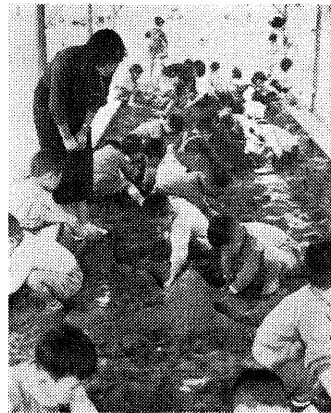
は、一級園舎として、遊具の設置に十分な配慮がなされています。また、遊具の設置に十分な配慮がなされています。また、遊具の設置に十分な配慮がなされています。

までです。この二者の折衷をしていただき、幼稚園としての雰囲気を感じようぶん表現していただくよう土地と建物と設置基準とのバランスにおいて話し合いました。結果が平面図の通りです。

園舎の敷地が狭いのでグリーンベルトを外遊びの場にするようにし、地域の子どもも利用するであろうことをP側に了解していただいて、遊具を備えつけました。夏休み後十月初旬までせまい中庭でばかり遊んでいた園児がいつせいに広々とした前庭で思う存分遊べたようすです。園児は勿論園児の帰った後、近所の子どもたちの楽しい遊び場として大いに利用していますが、中学生ぐらいの子どもたちの遊びかたがいつの間にかいたずらをして遊具の修理をたびたびしなければならぬのは、残念でなりません。管理面に地域の人々の指導助言をいただきたいものと念じているばかりです。

増改築にあたって私の第一の願いは、北海道は冬季間が長いので、冬季保育の効果

一番大好きな砂遊びの場で、グループ別に遊びの集中です。



的な部屋であることだったので。それは第一に明るいこと、第二に暖かいことこの工夫を考えました。屋根にポリエステル材を使い、サンルーム式との構想を持ちました。この主張が実現出来れば、冬季保育中最も考慮しなければならぬ健康保育の面で、大自然の温恵に浴することが出来るわけです。従来の建物の欠点は暗いことなのです。さらに、北海道は燃料費が総計費の三〇%ぐらい焼やしてしまうのです。それでも部屋はせいぜい八度ぐらいより保て



外遊びの後玄関横で手を洗います。
「ワアアきれいな手になったいい気持ち」

ないのです。ところがポリエステル材を使うと屋根だけで五十万円以上がうとこのことで打ち切られました。再三関係者と話し合いましたが好転しませんので、P側の御協力の一部屋なりともポリエステル材を使って、園側の考えを実現することに決定、六坪の部室の屋根にポリエステル材を使って増築しました。六坪の屋根分で十万円もかかるのですから、幼児教育こそ人間形成の重要な役割をなすものであるとの信念が、予算編成の人々に浸透していないかき

り、現在の日本の経済状況ではやむを得ないであろうと思うにつけ父兄各位の熱意に、ひとしお感激しました。

増築後二ヶ月あまり、実際保育にどんな影響を与えているであろうかとの結論も経過も申し上げるには早すぎると思えます。

サンルーム式の暖かい明るい部屋は、決してぜいたくなものでなく、冬国の健康保育には当然必要な施設であることをお伝え申し上げ、寒い地域での幼児施設のため大いに取り上げていただきたいと思えます。

使用后二ヶ月あまりでは感想を申し上げます。その中で常識的であるとは思いますが、他の部屋にくらべていつも気温が三度前後高いこと、一番明るい部屋であることなどから、ちょうど温室に入ったようなほのぼのとした暖かさであるということです。この条件が子どもたちを誘うのでしょうか。自由遊びの時には三年保育の部屋に使用しているのですが、何となく集まって来て遊ん

でおります。そのよい結果を私ども職員一同眺めながら、最初の計画通りの屋根が出来たらとうらめしく思いながら眺めている状態です。煙突を集合煙突に、床板に三井ボート材料、壁面に穿孔板の利用、保育室から中庭へ出やすいよう中庭に面した側にガラス戸を、など改築しましたので、園児たちは遊びに多面的な展開を見せて思い思いのグループ別に遊んでおりますが、主として健康保育のために考えたサンルーム式の部屋のようなすを申し上げました。

理想的な施設条件から言えば、満点の半分にもならない園舎とも言えるかも知れませんが、二百人あまりの父兄が三年計画でピアノ一台購入の話し合いが、園舎の増築まで実現出来、しかも二年間で完了した意気盛んな盛り上りに、ただただ子どもを思う親心の真実が胸にこたえます。

不備な施設条件五十点分は人の和という人的環境によって補いたいものと前進してまいります。